

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスふなで				公表日		2026年 6月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	宿題をする時は2階の部屋を使用したり、人数が多いと感じた時は密集しないように各部屋を活用するようにしている。また、公園等をよく利用している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	0	子どもの安全のため、必要以上の人員配置をしている。一人一人に合った支援が可能になる。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	車椅子などの利用者がいないためバリアフリー化はできていない。療育室の床は今年度、新しくマットを敷いた。	トイレのスペースがせまいと感じることがある。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	利用者の特性に合わせてテーブルやロッカーを配置している。掃除は毎日行っている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	必要に応じて2階に2部屋あり、状況に応じて使用している。宿題をしたり全体プログラムや本を読むスペースになっている。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	朝のミーティングでその日のスケジュールを確認し、夕方のミーティングでは振り返りを行って情報を共有している。グループラインを活用して非常勤の職員にも共有している。	非常勤の職員に情共有できないこともある。グループラインを上手に活用していく。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	保護者向け評価表は実施している。職員間で共有している。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	夕方のミーティングで振り返りを行いその際に話し合いができる環境になっている。	非常勤職員は意見を言える機会が少ないため月に一回、管理者との面談を実施している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		今後検討していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	研修動画などを使用して行っている。児童発達支援管理責任者の基礎研修を受講した職員もいる。				
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	ホームページに公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	年齢や子どもの個性に合わせて小集団に分かれて行動して子どもに合った支援ができるように配慮している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	午前中のミーティングや夕方のミーティングの時に話し合いをして共有、検討を行っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	グループラインを活用して共有している。	非常勤職員への共有ができていないことがある。共有漏れがないように気を付ける。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	支援計画作成会議などで職員に共有している。また、日々のミーティングで共有する時間もある。	非常勤の職員に共有する時間が少ないので共有できる時間を確保していく。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	児童発達支援管理責任者が作成し支援計画作成会議にて他の職員の意見も取り入れている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	朝、夕のミーティングで活動プログラムを検討している。	常勤職員がメインになって立案している。非常勤職員の意見もできる時間を確保できるようにする。			

は 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	連続して同じプログラムをしないように行っている。また、公園等も曜日や利用者によって検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	子どもの特性によって個別と集団に分かれて活動できるように人員配置をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	朝のミーティングでその日の流れやプログラムの内容を共有している。また、夕方のミーティングで次の日のプログラムを検討している。	非常勤職員に共有するのが遅くなってしまうことがあるのでライン等を活用して共有しているが、伝達ミスもある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	朝、夕のミーティングで振り返りを行っている。	常勤職員間では行っているが、非常勤職員に共有できないこともある。共有する時間を確保する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	業務日報、サービス提供記録を職員が共有できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	6か月ごとにモニタリングを行い個別支援計画に反映している。職員間でも共有している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	単なる体力づくり（運動）に留めず、集団ルールのあるスポーツ（ドッジボールや鬼ごっこ等）を取り入れ、順番待ちやルール遵守、勝ち負けの感情コントロール（社会性）を同時に育むプログラムを実施している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	職員配置に余裕をもつことで室内遊びか外遊びを選択できる日もある。また、車を複数台で行くことで色々な対応ができる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者が参加している。また、参加前に対象児童について他の職員とも情報を共有している。	職員体制の関係で児童発達管理責任者しか参加することができない。今後は他の職員も参加できる機会があると良い。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	相談支援事業所を中心に支援会議などで連携を取って情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	保護者から毎月下校時刻一覧表を提出してもらっている。アプリを使って連絡調整しているので連絡が取りやすい。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	契約時やモニタリングで保護者の方から当時の様子は聞いている。	現時点ではほとんどないので今後は必要な情報共有はしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		対象の児童がいらないので必要な児童がいれば情報を共有していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		出来ていないので今後は参加していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	公園などで地域の子どもたちと遊ぶときもある。	積極的に交流を持っていないので交流できる機会を設けたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	管理者のみ参加できるときもある。	管理者以外の職員も今後は参加できるように努めたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	帰りの送迎時や電話などで子どもの状況を伝えている。また、6か月に一度はモニタリングで課題について話している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	研修のチラシなどは配布して共有したことがある。	家族支援プログラムは積極的に行っていないので今後はできるように検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	事業所見学や契約の時に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	児童発達支援管理責任者が作成し他の職員の意見も取り入れている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	個別支援計画書の説明をして保護者の同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	電話や対面で話を聞いて悩みなどを聞いて個別に対応などを行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	5		日々の支援や業務に追われ、実施することが難しい。しかし、利用者も増えてきたので今後、交流できる機会をもてるように検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	保護者の方の要望は可能な限り、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HUGのアプリを使って行事の日程や持ち物の連絡をしている。また、Instagram、ブログで日々の様子を更新している。	SNSの更新が定期的にあげられていないので定期的に発信できるように職員間で役割分担をしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	職員一人一人に秘密情報の保持に関する誓約書を書いてもらっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもには絵カードを使用して伝えている。保護者の方にはHUGアプリやライン、電話で相談しやすい環境になっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		現時点ではできていないが今後、検討して行っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		家族の方に周知があまりできていないので今後行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	避難訓練を行ったり防災センターに行って体験学習を行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	2	契約の時に話を聞いている。こどもの状況は送迎時や電話などで情報共有をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		医師の指示書が必要な程度のアレルギーを持っている子どもがいないがいる場合は医師との連携を図っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	施設内の見回りや課外活動を行う時は安全に過ごせるかの確認は実施している。	非常勤職員にも情報共有を行ったり話し合う機会をもうけていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		家族への周知が不十分なので早急に周知をしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	ヒヤリハットを事業所内で共有している。再発防止に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2	虐待防止委員会を設置し研修などを行い情報を共有している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	契約の時に保護者の方には身体拘束についての話を説明している。	職員間での共有不足があるので研修などで話し合いをする機会を設けていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2026年 3月24日 ～ 2026年 4月 6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2026年 3月 24日 ～ 2026年 4月 1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	課外活動を通して、豊富な経験ができること	遠くの公園に行ったりして色々な遊具や環境を経験できる。特性に合わせて1対1で支援している子もいるので存分に楽しめる環境設定を優先している。長期休みでは、外食体験、川遊び等も行っている。	長期休みなどで1泊2日のキャンプ体験などもできるという経験になると感じている。
2	特性に合わせた職員配置で支援を行っている。	子どもが楽しく療育できるような環境設定と職員体制をしている。外遊びがしたい子、室内遊びがしたい子に分かれて選択できるように心がけている。	職員一人一人のスキルが向上すればもっと良い支援が行える。
3	利用時間や送迎に幅広く対応している。	保護者の要望をなるべく応えられるように送迎時間の設定や利用時間を柔軟に対応している。その結果保護者の負担が軽減できていると感じる。	保護者同士で交流できる機会があればいいと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域と交流する機会が少ない。	地域の方々を行う行事ができていない。夏祭りなどで地域の方を巻き込んだ行事が実施できるとよい。	利用者も安定して利用してもらえるようになったので次年度は実施を検討する。
2	SNSやブログの更新が中々できない状況が続いてしまった。	定期的に更新ができるように役割分担ができていなかった。	InstagramなどのSNSにも力を入れて役割分担を行って、どのような療育をしているかを発信していく。
3	利用者も大きくなり10人いると事業所が狭く感じこともある。	事業所の1階部分で過ごすことが多い。2階部分を上手く活用していく必要がある。	現在でも公園などを利用したり小集団に分かれて活動したりして狭くならないように工夫している。また、2階部分も上手く活用していきたい。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日：2026年6月1日

事業所名：放課後等デイサービス 放課後等デイサービスふなで

対象人数(保護者)20人 回答者数 16人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1		1
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	14			2
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	1		1
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16			
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1		1
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1		
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	15	1		
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1		2
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1		
	⑩	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	2		
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	2	7
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16			
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16			
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	4	7	3
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	16			
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	1		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	4	7	4
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15		1	
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	1		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	1	3
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	1		
非常時 等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	2		4
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	2		6
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1		1
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			2
満足 度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	1		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	1		
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	15	1		

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画(個別支援計画)」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。